

小学校音楽科における主体的・創造的に取り組む力の育成を目指して(1年次)

— 伝統音楽を素材として、鑑賞と音楽づくりの関連を重視した学習モデルの提示 —

日比 淳子 (京都市総合教育センター研究課 研究員)

音楽科では、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成が重視されている。また、鑑賞の活動では、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにするとともに、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力の育成が求められている。そこで、本研究では、子どもたちが主体的・創造的に音楽活動に取り組めるよう、音楽を形づくっている要素を要として、鑑賞と音楽づくりの関連を重視し、研究を進めた。関連の工夫の一つとして、我が国や郷土の伝統音楽を素材とした実践授業を行い、分析と考察を行った。

第1章 主体的・創造的に取り組む音楽科教育

第1節 いま、音楽科教育に求められているもの

いま、音楽科教育において特に充実を求められているのが音楽づくりと鑑賞の活動である。音楽づくりの活動では、音をまとまりのある音楽へと構成すること、鑑賞の活動では、曲の特徴を理解し、音楽の面白さやよさにふれることが求められている。

平成20年10月から平成21年2月にかけて実施された「特定の課題に関する調査(音楽)」の結果から、音楽づくりの活動では、音楽の仕組みである反復や変化などの構成を工夫する過程を大切に、思いや意図をもち、それを生かしてつくることのできるような指導の工夫が大切であると考ええる。また、鑑賞の活動では、強弱などの音楽の要素や音楽全体の仕組みを聴き取りながら、曲想の感じ取りを深めるような指導の工夫が大切であると考ええる。

第2節 表現領域と鑑賞領域の関連の重視

表現領域と鑑賞領域は表裏一体であり、関連付けて指導することが求められている。特に、音楽づくりと鑑賞においては、領域を超えた関連付けを図ることで、音楽を聴き取り、感じ取る力が更に高まるのではないかと考える。また、相互に習得と活用を図ることにより、各領域において付けたい力もより高まると考える。

学習指導要領の改訂において、〔共通事項〕が新設された。〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素に着目し、それらの関わり合いを感じ取ることにより、音楽のよさや面白さがわかる。また、関連付ける際には、題材を貫く、音楽を形づくっている要素を明らかにすることが大切である。各活動で学んだことを生かすことで、主体的・創造的に表現し鑑賞する力を育成できると考える。

第2章 鑑賞と音楽づくりの関連を重視した学習モデル

第1節 我が国や郷土の伝統音楽の指導

日本人がもつ音色やリズムなどに対する感覚、音や音楽に対する感性は、日本の自然や風土、言語などに由来するものが多い。特に、日本の音楽は日本語と密接な関係がある。また、体の動きとも結び付いている。音楽科教育において、指導者が、日本の自然や風土、日本語などの中で育まれた子どもの音楽的な感覚に目を向け、それらを意識した上で、子ども自身が本来もっている豊かな感性を生かした伝統音楽の指導に当たることが大切であると考ええる。

京都には、歴史的な背景や文化的な特徴から、地域に伝わる様々な伝統音楽が受け継がれている。鑑賞と音楽づくりの関連を図るために、京都に関わりのある四つの素材(「京都のわらべうた」「祇園囃子」「六斎念仏」「京都の民謡」)を取り入れることが可能であると考ええる。

第2節 音楽を形づくっている要素に着目した学習モデルの作成

鑑賞と音楽づくりを関連付けるに当たり、まず鑑賞の活動から始めて音楽づくりの活動へ、そして、再び鑑賞の活動へ戻るといった流れが効果的であると考ええる。主な学習活動については以下に示すとおりである。

◇鑑賞の活動(音楽づくりの前)

- ・感じ取ったことと聴き取ったことを相互に行き来させた、ていねいな鑑賞を行う。

○音楽づくりの活動

- ・曲の感じに合うように、思いや見通しをもって音楽をつくる。

◆鑑賞の活動(音楽づくりの後)

- ・再び鑑賞し、曲の面白さやよさを味わって聴く。

第3章 我が国や郷土の伝統音楽を素材とした実践授業

第1節 第2学年の実践授業から

○京都のわらべうたで遊ぼう

鑑賞の活動では、京都のわらべうたである「たんす長持」という曲を聴いた。三回くり返して曲を聴いたり、楽譜を見たりすることで、問いと答えの仕組みを見つけることができた。音楽づくりの活動では、わらべうたの曲の感じを生かして、二人組で問いと答えの音楽をつくった。音楽づくりの後の鑑賞の活動では、もう一度京都のわらべうたを聴いて、曲の楽しさを紹介した。曲を聴いた子どもたちは、どのわらべうたにも、問いと答えの仕組みがあることに容易に気付くことができた。音楽をつくった経験を通して、問いと答えの仕組みに対する理解が深まり、楽曲のよさや面白さにふれることができた。

○「長刀鉾祇園囃子」のおもしろさを見つけよう

鑑賞の活動では、全校児童が、保存会の方による祇園祭・長刀鉾・祇園囃子のお話と演奏をきいた。その後、クラスで「獅子」という曲を聴き、音楽を形づくっている要素を聴き取るようにした。音楽づくりの活動では、「獅子」の曲の感じを生かして、鉦と太鼓のリズムをグループでつくり、6年生による笛の旋律を重ねて発表した。音楽づくりの後の鑑賞の活動では、「獅子」を再度聴き、楽器の種類や音楽を形づくっている要素を用いて紹介文を書くことができた。子どもたちは、音楽づくりを通して、長刀鉾祇園囃子の曲のよさや面白さを明確に聴き取り、感じ取ることができた。

第2節 第5学年の実践授業から

○「壬生六斎念仏」の魅力を探ろう

鑑賞の活動では、「祇園ばやし」という曲を聴いた。鉦と太鼓と笛の楽器で演奏されていること、三つの楽器が重なり合っていること、かけ声があることなどを聴き取り、地域に伝わる伝統音楽に興味を示す様子が見られた。音楽づくりの活動では、「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、グループで鉦と太鼓のリズム、笛の旋律をつくり、それらをつなげて、クラスで一つのまとまりのある音楽にした。音楽づくりの後の鑑賞の活動では、もう一度曲を聴き、曲の中の違いを細かく聴き取り、そのよさを感じ取ることができていた。紹介文では、壬生六斎念仏の曲の特徴や演奏のよさを、具体的に紹介することができた。また、地域にある伝統音楽を大切にしたいという思いにつなげることもできた。

○民謡のはやしことばで遊ぼう

鑑賞の活動では、民謡を聴き、お気に入りののはやしことばを見つけた。このとき、声の特徴や反復、変化に着目する子どもは少なかった。音楽づくりの活動では、民謡の曲の感じを生かし、はやしことばを使って音楽をつくった。曲の感じに合うために、どのような工夫をすればよいか考えることで、思いや意図をもって活動することができた。音楽づくりの後の鑑賞の活動では、もう一度民謡を聴き、曲の魅力を紹介した。はやしことばの音色の違い、反復、リズムや速度の変化など、はやしことばの声の特徴に着目した記述が多く見られた。鑑賞と音楽づくりを関連付けた活動を行ったことにより、民謡に親しみ、曲の特徴や演奏のよさを味わって聴くことができた。

第4章 主体的・創造的に取り組む力の育成を目指して

第1節 研究の成果と課題

伝統音楽を素材としたことにより、豊かな感性の表出や、身近な素材による関心・意欲の高まりがみられた。一方で、子どもが親しみやすく聴き取りやすいと思われる教材を選択すること、和楽器の確保の難しさなどの課題もみえてきた。

また、鑑賞と音楽づくりの関連を重視したことにより、以下のような成果がみられた。

◇鑑賞の活動（音楽づくりの前）

- ・感じ取ったことと聴き取ったことを結び付けて考えることができるようになった。

○音楽づくりの活動

- ・鑑賞の活動で学んだ力を生かし、思いや見通しをもって音楽をつくることができた。

◆鑑賞の活動（音楽づくりの後）

- ・音楽をつくった経験を通して、音楽を聴き取り、そのよさを感じ取る力が高まった。

第2節 さらに充実に向けて

実践を通して、子どもたちは、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、曲のよさや面白さを味わって聴くことができた。それにとどまらず、世界の音楽に視野を広げ、世界からみた我が国や郷土の伝統音楽のよさに気付くこともできるのではないかと考える。

また、小学校第5学年及び第6学年と、中学校第1学年における鑑賞活動の指導事項を比較すると、子どもの発達段階に応じた内容になっている。小学校と中学校の連続性を意識した鑑賞と音楽づくりの関連を図る取組が大切であると考えられる。